

第 98 回 理事会・拡大執行委員会 議事録

日時：2020 年 7 月 9 日（木曜日）14 時～18 時 20 分

開催方法：Web 会議システム（WebEx）利用

【出席者（Web） 39 名】※敬称略

〔理事〕

柚崎 通介（会長）、岡部 繁男（副会長）、加藤 忠史（副会長）、磯村 宜和（庶務理事）、大塚 稔久（副庶務理事／大会委員会委員長）、宮川 剛（副庶務理事／将来計画委員会委員長）、上口 裕之（機関誌理事／NSR 委員会委員長）、山中 章弘（広報理事）、山中 宏二（会計理事）、岩坪 威（理事）、大木 研一（理事）、大隅 典子（理事）、岡本 仁（理事／第 42 回大会長）、奥山 輝大（理事）、笠井 清登（理事）、北澤 茂（理事／第 43 回大会長）、木山 博資（理事）、小林 和人（理事／第 46 回大会長）、定藤 規弘（理事）、銅谷 賢治（理事／第 45 回大会長）、林 康紀（理事／脳科学辞典編集委員会委員長）、尾藤 晴彦（理事／第 44 回大会長／将来計画委員会 日中韓 WG 委員長）、藤山 文乃（理事）、渡辺 雅彦（理事）

〔委員会委員長〕

磯田 昌岐（奨励賞選考委員会委員長）、奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、尾崎 紀夫（臨床・関連学会連携委員会委員長）、掛川 渉（ホームページ委員会委員長）、合田 裕紀子（国際連携委員会委員長）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、中村 克樹（神経科学分野における霊長類を対象とする実験ガイドラインの策定に関する専門委員会委員長）、平井 宏和（将来計画委員会 学会体制 WG 委員長）、古屋敷 智之（神経科学ニュース編集委員会委員長）、Thomas J. McHugh（将来計画委員会 機関誌 WG 委員長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）、吉本 潤一郎（情報基盤整備委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長）

【欠席者 3 名】※敬称略

岡野 栄之（理事）、林（高木） 朗子（理事）、花川 隆（倫理委員会委員長）

【報告事項】

- 1) 磯村宜和庶務理事から会員構成や入退会者数、協賛後援名義に関する報告があった（資料 A）。会員の全体数は昨年に比べ准会員分の減少があったが、准会員を除くとほぼ横ばいであったことと、COVID-19 の影響によりイベントが自粛傾向であったため、協賛・後援の申請は少なかったとの説明があった。
- 2) 第 43 回大会（2020 年神戸）に関し、北澤茂大会長より準備状況の報告があった。COVID-19 の影響により、初の試みとなる WEB 開催となったことが報告された。予想以上に好意的な反応が多かったので、来年以降の大会開催時の参考とするため、アンケートを実施し、参加者の意見を集める方針が示された。

- 3) 第 44 回大会（2021 年東京）について、尾藤晴彦大会長から準備状況の報告があった。2020 年に予定されていた東京オリンピックが 2021 年に延期された影響により、東京国際フォーラムが使用できなくなったことから、会場を神戸に、開催期間も 2021 年 7 月 28 日～31 日に変更したことが報告された。
- 4) Neuro2022（第 45 回大会、2022 年沖縄）について銅谷大会長より準備状況の報告が行われた。2020 年 6 月に現地視察と運営業者選定コンペを予定していたが、COVID-19 の感染拡大を防止するため、視察は延期し、コンペは WEB 会議システム (Zoom) を用いたオンラインで行ったとの報告があった。
- 5) 上口裕之 NSR 編集主幹から投稿数や採択率に関する報告を受けた。2019 年は投稿数が増えた他、Impact Factor が 2.645 になったとの報告があった。投稿数をさらに増やすため、カスケード査読を可能にしてはどうかという意見があり、Neuroscience Peer Review Consortium (NPRC) への加入の有無について調べ、エルゼビア社の方針を確認することとした。
- 6) 奨励賞選考委員会の磯田昌岐委員長から、受賞候補者 5 名全員から総説投稿があり、受賞者が確定したことが報告された。
- 7) 会員向け一斉メール配信システムの使用内規について、磯村宜和庶務理事より説明があった。これまではルールが明文化されていなかったが、内規にまとめ、WEB 理事会 (Slack) の審議により承認されたことが報告された。

【審議事項】

- 1) NSR 会計 2019 年度決算案が承認された。
- 2) 継続的大会会計 2019 年度決算・2020 年度予算が承認された（資料 B, C）。
- 3) 本学会に候補者の推薦を依頼されている賞や助成の選考方針について審議した。現状の問題点として、学会ホームページに候補者募集の案内を出しても応募者が少ないこと、推薦しようにも応募者の情報が十分でない場合があること、全ての賞の選考を指名委員会を担当しており負担が大きいことなどが挙げられた。これらの改善策として、賞や助成の一覧をホームページなどで積極的に広報する他、若手を対象とする賞は奨励賞選考委員会が担当することを決めた。その他、これまでに奨励賞などの受賞歴がある会員は、既に一度学会で選考を行っていて情報も十分なので、優先的に推薦する案が示されたが、多様性が失われるかもしれない点を懸念する意見があり、継続審議となった。
- 4) 柚崎会長から、ジョセフ・アルトマン賞の選考委員について、規定に従い半数（3 名）の改選を行う旨の説明があり、指名委員会から推薦された 3 名が 2021 年～2024 年の選考委員として承認された。また、2021～2022 年の選考委員長が決定した。その他、選考規定の細則につき、WEB 理事会 (Slack) の審議により改定案が承認されたとの報告があった。他に、2020 年度の受賞者が決定したこと、楯をやめて賞状のリニューアルを行ったことが報告された。
- 5) 柚崎会長から、本学会も加盟している IBRO (The International Brain Research Organization) の Global Engagement Initiative の活動資金として、これまで毎年、加盟金とは別に 100 万円を拠出してきたが、今回また 3 年間 (2020-2022) の継続を求める連絡がきた旨の説明があった。MoU を結ぶ前に、Global Engagement Initiative の活動状況についてよく調べ、関係者からも詳しい話を聞き、継続するメリットについて検討するものとした。

【各委員会・WGの活動予定報告】

- 1) 将来計画委員会の宮川剛委員長から、産学連携推進委員会、アウトリーチ委員会と3委員会連携で、これまでは市民公開講座や産学連携シンポジウム、大討論会等として開催していたものを合体させ、大会期間中にZoom Webinarを用いたリアルタイムイベントを開催することを企画中であるとの報告があった。これらの開催経費につき学会本体または第43回大会予算での支出希望があり、第43回大会の北澤大会長からおそらく支援可能であるとの回答があった。
- 2) 機関紙ワーキンググループのThomas McHugh委員長から活動報告があった。NSRとエルゼビアとの現在の契約について、上口編集主幹、柚崎会長、入来前編集主幹と議論した結果、10年間の契約期間終了後、NSRの所有権の50%を無償で取得する権利が得られると考えられるため、これを今後の目標とすることが述べられた。
- 3) CJKワーキンググループの尾藤晴彦委員長から、CJK/FAONS/IBRO-APRCとのバランスのとれた関係を通して、アジアにおける神経科学の学術的発展を目指すべく、JNSがどのような方向性を取るべきかという議論を暫定CJK-WGと国際連携委員会の合同で行う予定であるとの報告があった。
- 4) 学会体制ワーキンググループの平井宏和委員長から、同ワーキンググループに新しく委員2名の追加提案があり、承認された。また、学会の法人化について討議した。法人化のメリットはあるものの、法人化に伴って学会運営が形式的になり過ぎてしまう危険性が指摘された。柔軟性を維持することを重視しつつ法人化する方法があるか、継続審議するものとした。現在のパネル制度についても審議した。パネル制度自体は残すものの、分類を整理し直すことを決めた。評議員制度や総会の実施方法は、引き続き調査や検討を続けることとした。
- 5) 大会委員会の太塚稔久委員長から、年次大会での講演謝金に関する統一基準の発議があり、原則として学会側で統一基準を設定することを決定した。またその内容として、学会の会員や、理事を務める者であっても、特別講演や教育講演を行った場合には謝金を支払うものとした。ただし大会参加費と旅費は、会員活動の範囲であることから、自己負担とした。なお、大会主催者（実行委員等）に対する謝金は、利益相反の問題を含むため、別途検討することになった。
- 6) 国際連携委員会について、合田裕紀子委員長から、FENSやIBROとの交換Travel Awardや、大会で実施しているTravel Awardのうち指定枠（中国、韓国、イラン、インド）の、今年のCOVID-19の影響を受けて変更された点に関する報告があった。
- 7) 情報基盤整備委員会の吉本潤一郎委員長から、IT業務を委託している松本氏との今後の契約についての現状説明が行われた。また、Shirley Bayer先生（Joseph Atman先生の夫人）から、Joseph Atman先生関連のホームページの管理・運用を学会で引き継がないかとの打診があり、検討中であることが報告された他、会員情報管理システムのリニューアルに関する進捗報告があった。
- 8) 神経科学ニュース編集委員会の古屋敷智之委員長から、編集・発行状況と、ページ数の目安を決め、投稿規定を改訂したこと、ホームページ委員会との連携手続きを定めたことなどが報告された。神経科学ニュースの印刷冊子を郵送することについて、会員側の希望を聞いてはどうかとの指摘があり、調査することになった。
- 9) ホームページ委員会の掛川渉委員長から、7月1日にホームページのリニューアルが完了したとの報告があった。また神経科学トピックスを含む投稿規定の改訂を行った他、新企画について検討中であるとの報告があった。

- 10) アウトリーチ委員会の松元健二委員長から、将来計画委員会・産学連携委員会の3委員会連携企画イベントについて準備中である旨の報告があった。また、ブレインビー委員会とも協力し、高校の先生方にも同イベントにご参加いただけないかお声かけする予定である旨が述べられた。
- 11) 産学連携委員会の松元健二委員長から、応用脳科学コンソーシアムの現状についての説明があった。また、例年、企業の方に産学連携シンポジウムなどを中心に年次大会のプログラムにモニターとしてご参加いただき、そのあとでご意見をいただいているが、今年も10名の方に大会プログラムをご視聴いただく他、3委員会連携企画にもご参加いただく予定であるとの報告があった。
- 12) アドボカシー委員会の松田哲也委員長から、メールによる委員会を開催した報告があった他、今後の活動計画が示された。
- 13) 利益相反委員会の松田哲也委員長から、理事や委員長の先生方全員から、COI 申告書をご提出いただいたとの報告があった。また、今後、COI 運用指針における学会発表時の開示方法のうち、ランチョンセミナーの取り扱いについて検討する予定であることが示された。
- 14) 脳科学辞典編集委員会の林康紀委員長は途中退席であったため、代わりに柚崎会長から、脳科学辞典の一部を書籍化できないか計画中であることが報告された。
- 15) 臨床・関連学会連携委員会の尾崎紀夫委員長は途中退席のため不在であったので、事前提出された資料の確認が行われた。
- 16) ダイバーシティ対応委員会の渡部文子委員長から、男女共同参画協会連絡会の運営委員会に参加した旨の報告があった。また、今年の第43回大会で開催する予定であったダイバーシティ委員会企画のランチョンセミナーについては、WEB 開催が難しいため、来年の第44回大会での開催に延期されたことが報告された。
- 17) 倫理委員会の花川隆委員長は欠席であったため、代わって松田哲也委員から活動報告が行われた。Zoom で委員会を開催したこと、ならびに同委員会において軍事研究についてのポリシー設定をする必要性について審議中である旨の報告があった。
- 18) 動物実験委員会の竹村文委員長より、COVID-19 に対して学会委員会としての対応を検討したが、地域差も大きいので、一律のメッセージを出すのではなく、各機関で対応し、それを情報共有しつつ、問い合わせがあった場合には委員会で意見交換した上で回答することを決めたことが報告された。また実験ガイドラインの策定に関する専門委員会と議論しながら進めている旨の報告があった。
- 19) ブレインビー委員会の奥村哲委員長から、COVID-19 による脳科学オリンピックの選考や実施方法への影響の報告があった。
- 20) 生物科学連合担当委員会の宮田麻理子委員長は途中退席であったので、事前提出された資料の確認が行われた。
- 21) 神経科学分野における霊長類を対象とする実験ガイドラインの策定に関する専門委員会の中村克樹委員長から、「マカクザルおよびマーモセットを用いた神経科学や行動実験に関するガイドライン」が完成間近で、現在、関係者フィードバックを集めているところであるとの報告があった。まずは現状案で暫定版として学会の承認を得た上、フィードバックを受けて微細な修正を行うことについても承認を得たいとの説明があり、承認された。完成後の公開方法については、学会ホームページのアドボカシーなどのページに掲載することを検討中であるとの説明があった。

以上

資料 A

日本神経科学学会会員構成

2020年7月1日現在

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手会員	学生会員	海外学生会員
分子・細胞神経科学	2,021	197	92	13	309	20
システム神経科学	1,429	153	73	8	251	29
臨床・病態神経科学	620	30	39	4	69	2
その他の神経科学	240	26	18	1	101	1
パネル不明	11	5	0	0	8	1
合計	4,321	411	222	26	738	53
シニア会員	104					
名誉会員(名誉会長を含む)	18					
賛助会員 (1口10万円) ※	8					
全会員数	5,901					

※成茂科学 5口、他7社はそれぞれ1口

日本神経科学大会（継続的大会）2019年度（2019年4月から2020年3月まで）決算

科 目		2019年度決算
収入	年次大会経費から繰り入れ	
	第42回（NEURO2019）大会準備金貸付金返還*	2,000,000
	第42回（NEURO2019）大会からの繰入金* （事務室賃借料、事務委託費、システム委託費）	6,562,566
	第42回（NEURO2019）大会税金および手数料準備金*	1,000,000
	利息	
		244
収入合計		9,562,810
支出	大会準備貸付金	
	第44回（2021年）大会準備金	500,000
	事務室賃借料	
	事務室賃借料、通信・光熱費、事務機器使用料 （2019年4月-2020年3月）	1,936,680
	事務委託費	
	事務委託費（2019年4月-2020年3月）	2,263,785
	システム委託費	
	システム委託費（2019年4月-2020年3月）	1,944,000
	税金	
	第42回（NEURO2019）大会 （2019年1月-2019年12月法人税 + 消費税）	593,500
	納税手数料	
	決算書・税務申告書作成手数料 （2018年1月-2018年12月 後藤由紀税務会計事務所）	264,033
	決算書・税務申告書作成手数料 （2019年1月-2019年12月 後藤由紀税務会計事務所）	269,433
	交通費	
	旅費交通費（事務局経費）	311,966
	郵送料	
	郵送料（事務局経費）	6,413
	雑支出	
	大会参加登録費課金システム維持費	24,629
	JNS Meeting Planner 維持費	75,600
	大会運営業者契約書雛形作成	0
	大会アンケート関係費（粗品代、集計作業費）	0
	医育機関名簿 購入費用	0
	振込手数料	2,734
	その他	17,308
支出合計		8,210,081
収支差額 収入合計-支出合計		1,352,729
(A) 前期からの繰越額（2019年4月1日時点残高）		33,452,679
(B) 2020年3月31日時点残高		25,242,842
(C) 未収金調整額（*印の合計額）		9,562,566
(D) 次期への繰越額（B + C）		34,805,408
(E) 繰越金増減額（D - A）		1,352,729

日本神経科学大会（継続的大会）2020年度（2020年4月から2021年3月まで）予算

科 目		2020年度予算
収入	年次大会経費から繰り入れ	
	第43回（Neuroscience2020）大会準備金貸付金返還	500,000
	第43回（Neuroscience2020）大会からの繰入金 （事務室賃借料、事務委託費、システム委託費）	6,000,000
	第43回（Neuroscience2020）大会税金および手数料準備金	1,000,000
	利息	
		500
収入合計		7,500,500
支出	大会準備貸付金	
	第45回（2022年）大会準備金	2,000,000
	事務室賃借料	
	事務室賃借料、通信・光熱費、事務機器使用料 （2020年4月-2021年3月）	1,936,680
	事務委託費	
	事務委託費（2020年4月-2021年3月）	2,000,000
	システム委託費	
	システム委託費（2020年4月-2021年3月）	1,748,000
	税金	
	第43回（Neuroscience2020）大会 （2020年1月-2020年12月法人税＋消費税）	1,000,000
	納税手数料	
	決算書・税務申告書作成手数料 （2020年1月-2020年12月 後藤由紀税務会計事務所）	300,000
	交通費	
	旅費交通費（事務局経費）	600,000
	郵送料	
	郵送料（事務局経費）	20,000
	雑支出	
	大会参加登録費課金システム維持費	0
	JNS Meeting Planner 維持費	0
	大会アンケート関係費（粗品代、集計作業費）	0
	振込手数料	5,000
	その他	50,000
支出合計		9,659,680
収支差額 収入合計-支出合計		-2,159,180
前期からの繰越額		34,805,408
次期への繰越額		32,646,228